

株式会社エフエム茶笛

平成 25 年度第 4 回番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成 25 年 7 月 5 日（金）16 時 00 分～17 時 00 分

2. 開催場所：株式会社エフエム茶笛 2階 会議室

3. 委員の出席

委員総数：6名

出席委員数：6名

出席委員：大山博（番組審議会委員長） 水村雅啓 小林昌幸 宮岡利雄
飯島静江 黒川進

放送事業者側出席者：代表取締役社長 荻野 喜美雄
専務取締役 東 たか子
営業課長 宮岡 洋明

4. 議 題：番組の放送内容について

5. 議事概要：議題に沿って各委員お一人お一人の放送聴取の感想・意見・疑問点などを挙げていただき、他の委員と意見を交わす形式にて議事を進行、必要に応じて放送事業者側出席者が説明・回答しながら会を進めた。

6. 審議内容

委員長：これより各委員からご意見をいただきます。

委員：JCBAインターネットサイマル放送は、今どのような方法で聴けますか？

事業者：パソコンか、またはアンドロイド端末のスマートフォンで聴けます。

委員：FMチャッピーのホームページから簡単に利用できるもので、便利で良いです。

委員：番組の周知方法として、インターネットやスマートフォンを利用したサイマル放送による聴取が可能であるということを皆さん意外にご存知ないような気がします。ツイッターは運営されているようですが、フェイスブックは利用していますか。

事業者：ツイッターアカウントはありますが、フェイスブックは利用していません。

委員：大手企業では、企業としてのフェイスブックを運用しています。いいね！を押すことによって、周知が広がっていきます。

事業者：元手も掛かりませんので実施したいと思います。

委員：災害時に、スマートフォン等でサイマル放送を聴く場合、どれくらいの回線数の接続が可能でしょうか。

事業者：東日本大震災の被災地では、震災発生後1週間は携帯モバイルが全く繋がらなかったというデータが残っています。約1週間後、ある程度、道路が通れるようになって中継車両などが被災地に入ってきて、1ヶ月位は繋がりにくかったわけです。結果的には、携帯ラジオや車のラジオしかありませんでした。だからこそ我々コミュニティ放送局が臨時災害放送局として立ち上げましたが、まだ運用が続いています。復興が進んでいるとはいえ、臨時災害放送局があるうちは被災地であると言えます。もしも、我々の町で同様の被災状況に陥ることがあれば、全力で地域のお役に立ちたいと考えております。

委員：先日、NHKで東日本大震災の被災地にある女川さいがいエフエムがモデルになりました「ラジオ」というドラマの放送がありました。そこでサイマル放送でも聴取できるということを知り、試してみましたがサイト違いで聴くことができませんでした。現在、FMチャッピーでは自社制作番組の他に、「今日は何の日」など多数のコミュニティ放送局との共同制作の番組があり、実際にその地を訪ねてみたくなりますし、興味深く聴いています。サイマル放送では更に広範囲なつながりが可能となり、その地方の実情を生の声で聴くことができ

ます。懐かしさやその地方と相互理解を望む人、クリアな音声でリアルタイムで聴きたい人など、新しい価値観を見出して、徐々に利用者が広がっていくような感じがします。FMチャッピーでも、今まで以上に入間市や近隣市の情報を広く発信していただきたいと思います。

委員：先日、FMチャッピーを聴いていたら、能登の方のコミュニティ放送局の番組（ラジオななお制作、当社ネット放送番組「三輪一雄の歌の直行便」／土曜19：00～19：57）が流れていました。熱い語りでその状況がとてもよく伝わり、ラジオとは素晴らしい媒体であると感じました。その番組の中では、「どうせ1%くらいしか聴いていないけども、ネット局の埼玉県入間市のFMチャッピー（のエリア人口）なら10,000人が聴いているんです」と話していました。地方のコミュニティ放送局にとっては、こうしたネット局での展開が励みになるのかもしれませんが、むしろ全国規模ではない地域が発信していることの方に価値がある気がしました。キャノン電子の社長の講演会で聴いたのですが、批判的な意見を集めようとするなら高学歴の人を集めればいくらでも出てくるという話がありましたが、「ラジオフォーラム」番組内の発言について言えば、全国規模の放送ではどうしてもイデオロギー的な意見も多くなると思います。しかし、地に足がついた話をしていけば人の心に入ってくるような話ができるのではないかと思います。地方のコミュニティ放送局にも素晴らしい番組があり、首都圏なのでスマートな番組作りも良いですが、FMチャッピーもそれに負けない足で取材した泥臭さのある番組を作り続けて欲しいと感じました。

事業者：三輪一雄さんは石川県の方で演歌歌手です。地域振興の番組を当社でも放送させていただいていますが、番組スポンサーが取り扱う水産加工物については、ギフトシーズンには当社放送地域からも多くのオーダーが寄せられていると聞いています。

事業者：コミュニティ放送がサイマル放送で全国でも聴取できるような環境になったことで、もっと広範囲な全国へ向けた放送をお届けしていくのかという議論がありますが、コミュニティ放送は特定の行政区の中で目の前の100m先、200m離れた場所の情報を発信していくことが出発点だと思います。それを拓げていくということは、県域局のナックファイブや更にキー局である東京エフエム等と競合していくこととなります。臨時災害放送局の貴重さとは、100m先の情報さえ入手できない緊急災害時において、本当に身近な情報を放送することに価値があるわけです。それを、広範囲な情報を扱い流してしまえば我々の存在意義がなくなってしまいます。身近な情報を流さなくなれば、全国からサイマル放送で聴いてくださっている方々も、入間市の情報を知りたいからこそ聴いてくださるわけで、従いまして、サイマル放送が可能でも、やはり身近な情報に特化すべきであると考えております。

委員長：これにて議事は終了です。出席委員の皆様ありがとうございました。

（以上で議事終了）

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

審議機関の答申又は改善意見の内容	事業者による対応措置	対応措置の実行年月日
フェイスブックのアカウント取得。 運用による認知向上。	社内の更新体制を整備した上でアカウント取得。運用を開始。	平成 25 年 7 月 8 日

8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

本議事録を、下記の日時、方法にて公表・閲覧可能と致します。

・7月11日より、弊社ホームページ（URL <http://www.fmchappy.jp>）にて掲載。

9. その他の参考事項

特にありません。

以上

社 名	株式会社エフエム茶笛
-----	------------